

第50回日本肝臓学会総会
特別シンポジウム

知って欲しい!

「肝炎総合対策推進」における 医療連携支援の基盤となる 全国自治体協働の在り方

日時 2014年5月30日(金) 17:00~18:30
会場 ホテルニューオータニ東京 第3会場 (edo ROOM)

座長

折戸 悦朗 先生 (名古屋第二赤十字病院 消化器内科)

長谷部 千登美 先生 (旭川赤十字病院 消化器内科)

特別
発言

欧米における早期治療の取組み

世界肝炎連盟 会長 **チャールズ・ゴア** 氏

講演

1

自治体における肝炎対策の現状と期待 ~都道府県へのアンケート~

武蔵野赤十字病院 消化器科 **板倉 潤** 先生

講演

2

職域健診における病診連携の重要性 ~産業医へのアンケート~

武蔵野赤十字病院 副院長 **泉 並木** 先生

講演

3

肝炎コーディネーターが理解すべき肝炎患者の心理

国立病院機構 長崎医療センター **八橋 弘** 先生

講演

4

検査から早期治療へ患者自らが行動するための地域ぐるみの取組み

佐賀大学医学部 肝疾患医療支援講座 教授 **江口 有一郎** 先生

首都大学東京 システムデザイン学部 准教授 **渡邊 英徳** 先生

共催 一般社団法人 日本肝臓学会 / 一般社団法人 日本肝炎対策振興協会

座長

折戸 悦朗 先生 名古屋第二赤十字病院 消化器内科

1978年名古屋市立大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院勤務の後、名古屋市立大学第二内科講師、名古屋市立大学大学院消化器代謝内科学准教授を経て、2007年より名古屋第二赤十字病院消化器内科部長。医学博士、日本肝臓学会専門医・評議員、日本消化器病学会専門医・評議員。現在名古屋市立大学医学部臨床教授を併任。米国肝臓学会国際会員。

長谷部 千登美 先生 旭川赤十字病院 消化器内科

1980年旭川医科大学医学部卒業。旭川医科大学医学部第三内科医員、ハーバード大学 マサチューセッツ総合病院留学。慶友会吉田病院肝臓病センター所長を経て、2010年より旭川赤十字病院消化器内科部長。日本肝臓学会専門医・指導医、東部会評議員・男女共同参画委員会委員、日本消化器内視鏡学会、専門医・指導医・評議員、旭川医科大学臨床指導教授。

特別 発言

欧米における早期治療の取組み

日本における現状課題と他に類が無い良い取組みとして認識した事の発言。

欧米における参考事例と日本でも取り組める事例の発言。

世界肝炎連盟 会長 チャールズ・ゴア 氏

1995年C型肝炎と診断され、その後肝硬変であると診断される。2001年英国C型肝炎トラストを設立し、2004年ヨーロッパ肝臓患者協会の創設、初代会長に就任。2007年世界中の肝炎患者会が集まる会議を開催、NGO「世界肝炎連盟」設立、「世界肝炎デー」毎年開催を決定する。2010年に世界保健機構(WHO)により、「世界肝炎デー」は、「世界エイズデー」「世界結核デー」「世界マラリアデー」に次ぐ4つ目の公式疾患デーに認定された。

講演 1

自治体における肝炎対策の現状と期待 ～都道府県へのアンケート～

検査の啓発とその実施、医療機関への受診促進など、地域における生活者と医療機関を繋げる地域行政の役割は重要である。各自治体の肝炎対策への取り組みを知り、参考事例となる取組みを模索出来ると考える。

武蔵野赤十字病院 消化器科 板倉 潤 先生

1995年東京医科歯科大学医学部卒業。2004年東京医科歯科大学大学院卒業、博士号取得。C型肝炎ウイルスの遺伝子構造に関する研究を行う。2011年より武蔵野赤十字病院消化器科副部長、肝疾患相談センター副センター長(兼務)。日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝臓学会肝臓専門医・指導医。

講演 2

職域健診における病診連携の重要性 ～産業医へのアンケート～

産業医との病診連携の実態調査結果から、早期治療を勧める医師は半数に留まっている。より一層の早期治療の重要性の周知が必要である。産業医やかかりつけ医の周知により、病診連携による早期治療の実現度が向上すると考える。

武蔵野赤十字病院 副院長 泉 並木 先生

1978年東京医科歯科大学医学部卒業。同年、同内科。1986年武蔵野赤十字病院消化器科。1999年マイアミ大学に招聘され、アメリカ第1例目のマイクロ波熱凝固療法ライブデモを実施。08年武蔵野赤十字病院副院長。C型肝炎ウイルスが発見される以前から肝臓を専門とする。インターフェロン治療に早くから取り組み、肝臓癌患者の急増に対し新たな治療法を確立。日本肝臓学会理事・指導医(慢性肝炎ガイドライン委員、肝癌診療ガイドライン委員)、厚生労働省肝炎戦略会議委員。

講演 3

肝炎コーディネーターが理解すべき肝炎患者の心理

肝炎患者への意識調査の結果から、患者が抱えている悩みや意識、生活環境などが見えてくる。

患者が抱える課題の解決策として、医療者や家族などと連携する肝炎コーディネーターが果たせる役割が明確となる。

国立病院機構 長崎医療センター 八橋 弘 先生

1984年長崎大学医学部卒業。国立病院機構長崎医療センター、国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター治療研究部長を経て2004年より長崎大学大学院歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学専攻肝臓病学講座教授(併任)。2012年より国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター長。日本肝臓学会評議員、指導医、日本消化器病学会評議員、指導医、厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服政策研究事業)肝炎患者を対象とした相談支援システムの構築、運用、評価に関する研究班、主任研究者、厚生労働省肝炎治療戦略会議委員。

講演 4

検査から早期治療へ患者自らが行動するための地域ぐるみの取組み

ワールドカフェ方式を取り入れた肝炎コーディネーターの育成。患者・家族に対する早期治療の重要性を周知するためのメディアの活用。全国的に早期治療が促進されるために具体的な事例を紹介。

佐賀大学医学部 肝疾患医療支援講座 教授 江口 有一郎 先生

1994年佐賀医科大学医学部医学科卒業。佐賀医科大学内科学講座医員、佐賀医科大学総合診療部講師を経て、2012年より佐賀大学 医学部肝疾患医療支援講座教授。佐賀大学 医学部附属病院肝疾患センターセンター長(併任)。日本内科学会、日本消化器病学会(学会評議員)、日本肝臓学会(評議員)、日本消化器内視鏡学会、厚生労働省研究班研究:肝炎等克服緊急事業疫学班・陽性者follow up班、班員。メディアでも広く肝炎啓発を実施。

首都大学東京 システムデザイン学部 准教授 渡邊 英徳 先生

1996年東京理科大学理工学部建築学科卒業。株式会社フオン代表取締役社長を経て、2010年より首都大学東京大学院システムデザイン研究科准教授。「東日本大震災アーカイブ」にて2013年度グッドデザイン賞「グッドデザイン・ベスト100」選出および「復興デザイン賞」。他にも多数受賞。著書は講談社現代新書「データを紡いで社会につなぐ～デジタルアーカイブのつくり方～」などがある。

質疑応答